

令和2年度第2回喜多方市総合教育会議議事録

1 日 時 令和3年1月14日(木)午後1時30分～午後2時45分

2 場 所 喜多方市役所 本庁舎2階 庁議室

3 出席者

(構成員)

市長 遠藤 忠一

教育委員会教育長 大場 健哉

教育委員会委員 高橋 明子

教育委員会委員 荒明 美恵子

教育委員会委員 大森 佳彦

教育委員会委員 遠藤 一幸

(事務局)

企画政策部長 齋藤 進

企画政策部参事兼企画調整課長 小野 幸一

企画調整課長補佐 伊藤 博之

企画政策班副主任主査 鈴木 和人

企画政策班主査 中川 健介

企画政策班副主査 岩渕 太一

教育部長 江花 一治

教育総務課長 大瀧 浩信

学校教育課長 武藤 幸意

学校教育課主幹 小荒井 浩

学校教育課主幹兼管理主事 穴澤 正志

学校教育課長補佐 油井 弘美

学校教育課指導主事 齋藤 勝芳

4 協議事項

(1) 喜多方市立小中学校適正規模適正配置実施計画(案)のたたき台について

(資料1、資料1-1、資料1-2)

(2) 今後のスケジュールについて(資料2)

5 その他

なし

6 協議内容

(1) 喜多方市立小中学校適正規模適正配置実施計画(案)のたたき台について

武藤学校教育課長が資料1、資料1-1、資料1-2を基に説明。また、小荒井学校教育課主幹が別紙「地域設定(学区)と学校規模のシミュレーション」を基に説明。

○荒明委員

別紙29ページから35ページ、塩川地区における小学校の統合パターンについて、塩川小は存続、堂島小・姥堂小・駒形小が統合というパターンが無いが、そのパターンを入れなかった理由はあるか。

○小荒井学校教育課主幹

堂島小と駒形小を同じ地域設定(学区)することについては、距離的な問題から想定パターンに入れなかった。

○荒明委員

距離的な問題があるため近隣校の統合だけを想定したと思ったら、最後に塩川地域の全校統合パターンがあったため、それならば塩川小が存続、堂島小・姥堂小・駒形小が統合というパターンもあるのかなと思った。

○大森委員

荒明委員の質問に関連するが、29ページを見ると塩川小が存続、堂島小・姥堂小・駒形小が統合すると児童数は168名になり、20ページの豊川小・慶徳小が合併し児童数が165名になる統合パターンに近い。先ほど堂島小と駒形小の合併は距離的な問題で想定しなかったと答弁あったが、その2校が合併しても人数的に「望ましい学校規模」にマル(○)が付かないので、想定に無いことは理解できる。

○高橋委員

資料にある「望ましい学校規模」という観点で見ると、マル(○)が2つあることが良いと捉えてしまうが、例えば35ページについて、塩川地区の学校が全て統合すれば「望ましい学校規模」に2つマル(○)が付く、これで良いかと単純に考えてしまう。

しかし、次の問題として、通学距離や小学校の校舎はどのようにするかなどがでてくる。考えられるパターンと併せて、そういった懸案事項も記載してはどうか。

また、旧町村では統合してもマル(○)が付かない学校もあるので、旧市内とは別に、次の段階のシミュレーション(小中一貫校等の手法)を今から考えても良いのではと思う。

○武藤学校教育課長

先ほど荒明委員から御意見いただいた、塩川小は存続、堂島小・姥堂小・駒形小が統合というパターンを追加すること、また、高橋委員から御意見いただいた、想定パターンにより考えられるメリット・デメリットの追加について、対応させていただきたい。

○遠藤市長

将来の児童生徒数の基準を2060年に設定した根拠と、文科省で検討している現在のコロナ禍における少人数学級が見直されていることへの対応は反映すること

は可能か。

○武藤学校教育課長

市の長期人口ビジョンで推計される最長の設定年にしている。また、少人数学級（1クラス35人）への対応については、令和3年度から導入される予定であるが、本市では、学級編成基準について、福島県の独自基準に基づいているので、すぐに学級数増とはならない状況である。

○遠藤委員

2060年の児童生徒数は、あくまで推計であることに留意する必要があると思う。これから実施する住民説明会において、学区を越えた進学を希望する意見が多数あった場合は、了承するのか。

○武藤学校教育課長

現段階では旧市町村の学区内進学を基本と考えている。もし説明会でそういった意見が出された場合は、検討材料に入れていく考えである。

○遠藤市長

現時点のたたき台を基礎として、より議論されていくことを望む。

○高橋委員

例えば4ページの（喜多方地区における中学校）統合パターンなど複数校が統合する場合については、校舎を新築することなどは検討しているのか。

○武藤学校教育課長

ゆくゆく検討が必要なことであると認識しているが、まずは校舎の新設・既設の問題は切り離して、よりよい学習環境の整備を優先して検討しているので、児童生徒数や学校規模で統合パターンを検討している段階である。

○大森委員

資料1の7ページ下、別途早急に検討を要する学校としてあげられている上三宮小学校について、最優先に取り組まなくてはならないと理解できるが、低学年は統合の影響を2回受けてしまう可能性があるような気がする。また、一番の懸案は8ページ上の学校運営上の課題、先生方の配置の問題であると考えている。もし可能であれば特例として、先生方の配置をお願いしたい。

○遠藤市長

教職員の配置について、加配教員の配置は見込めるか。

○大場教育長

県の規定では、3学級になると事務職員の配置が無くなり、2学級になると養護教諭の配置も無くなってしまふ。現状では、今年度3学級であったが、要望により事務職員を配置していただいた。しかし、来年度については2学級になることで事務職員と養護教諭が配置されないことが予想され、先生方への負担の増加が懸念される。

○高橋委員

上三宮小学校の問題は早めに統合するか、(来年)3年生が卒業するまで継続する

かの2つがあると思う。もし、事務職員が配置にならない場合は、市で予算化し配置する方法もあると思うが、少人数で授業が成り立たない場合の問題は、近隣の小学校と合同で授業を実施するなどできないか。

○大場教育長

合同授業は実施できないこととなっている。上三宮小学校の対応は、行政区長等地域住民と話をしながら調整を進める必要がある。

○高橋委員

学校教育課には、地域住民に対し今回の統合問題について良く考えていただくよう働きかけをお願いします。

○遠藤市長

上三宮小学校は、昭和30年には全校生393名の児童が在籍していた。近年は、上三宮町に居住していても、学区外の小学校に入学してしまうケースが多々ある。

○大場教育長

隣の熱塩加納町においても、中学校に進学する際、部活動の理由で同様のケースが見られているようである。

○遠藤市長

以上、「喜多方市立小中学校適正規模適正配置実施計画（案）のたたき台」については、資料1の考え方で進めていく。

(2) 今後のスケジュールについて、小荒井学校教育課主幹が資料2を基に説明。

○遠藤市長

「今後のスケジュール」については、資料の考え方で進めていくことが確認された。

(3) その他

なし